

## 博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	石田 実知子 (****年**月**日)
本 籍	*****
学位(専攻分野)	博士 (保健看護学)
学 位 授 与 番 号	乙第 35 号
学 位 授 与 日	令和 3 年 3 月 20 日
学位授与の要件	学位規程第 3 条第 4 項該当
論 文 題 目	高校生の自他への暴力行動に対するレジリエンスを促進する 予防的介入方法に関する研究
審 査 委 員	教授 富田 早苗 教授 若井 和子 教授 波川 京子

## 博士論文内容の要旨

本論文は、自傷行為や暴力行動を低減させるレジリエンスに着目し、高校生の自他への暴力行動に対するレジリエンスを促進する予防的介入方法の開発を目的とした基礎的研究である。高校生を対象に 2014～2017 年の 4 年間に調査した 5 つの研究から構成されている。高校 3 年間の自傷行為経験の経時的変化から、1 年次の自傷行為得点が高い生徒は、年次の進行に伴って自傷行為得点が増加する知見を得ている。関係構築力、克服力、突破力の側面から「レジリエンス尺度」を、自傷行為と他害行動の側面から「自他への暴力行動尺度」を開発し、妥当性・信頼性を確認し、客観的評価を可能とした。さらに、レジリエンスを高めることは、自他への暴力行動への予防的介入に有効であることを確認し、レジリエンスの向上には精神的健康と関連のみられた「関係構築力」「克服力」の強化が必要であると示唆した。今後は、介入プログラムを作成しその有用性を評価することを目指している。

## 博士論文審査結果の要旨

1 月 13 日の審査委員会では、高校生を対象に自傷行為や他害行動等介入が困難な側面にレジリエンスに着目し調査を行ったこと、4 年間蓄積した調査結果を適切なプロセスを経てまとめていることを評価した。①レジリエンス尺度および自他への暴力行動尺度の開発では具体的な項目内容も提示すること、②実践への示唆を具体的に示すこと、③関係構築力および克服力と精神的健康の関連等、統計解析結果の意味内容についてわかりやすく説明すること、④有意差の表示に齟齬がある点について修正を求めた。

1 月 20 日の最終試験の口述試験では、審査委員会で指摘した内容の修正がされ、本研究の意義と結果についての的確に説明していた。また、尺度作成までのプロセス、倫理面での配慮、現場での活用法等の質問の回答も的確であった。論文題目では、予防的介入方法の開発となっているものの、開発の実施・評価は今後の課題であったことから、口述試験の意見を踏まえ、題目を一部変更し論文内容との整合性をもたせた。以上の経緯により、博士論文(乙)の最終試験の結果を「合格」とした。